

もう一発やらかしたら、  
日本列島は  
お終いだ！

元原発技師のモノローグ  
朗読劇

「線量計が鳴る」

脚本 出演  
中村敦夫

2020年2月29日(土)

開場:13:30

開演:14:00~16:00

所沢まちづくりセンター  
中央公民館 ホール  
(所沢市元町27-5)

【公共交通機関をご利用下さい】

入場料：2,000円

主催：朗読劇「線量計が鳴る」所沢上演実行委員会

共催：ところざわ倶楽部

協賛：生活クラブ生協埼玉所沢ブロック

連絡先：岡部まさ子 (080-5872-1868)  
むい食堂 せつ (090-4268-6926)  
(04-2994-4893)

原発の町で生まれ育ち、原発で働き、原発事故で全て奪われた。  
 これは天命か、それとも陰謀か？  
 老人は、謎解きの旅に出る。  
 中村敦夫が演じる年老いた元原発技師のモノローグで  
 原発が作られた経緯や仕組み、  
 福島事故の実態、  
 また原発を動かしている本当の理由  
 利潤に群がる「原子カムラ」の相関図が浮き彫りにされる。  
 作・演出・主演のすべてを中村敦夫が担うひとり語りで、  
 福島弁の台本作りに3年以上かけたというライフワークだ。

これまで日本全国で86回公演。  
 所沢での公演は第93回目の公演となる予定。



### 中村敦夫（なかむらあつお）プロフィール

1940年東京生まれ。俳優、作家、日本ペンクラブ理事・元参議院議員。1972年放映の「木枯し紋次郎」が空前のブームになり、数多くのドラマで主演をつとめる。海外取材を基に書いた小説「チェンマイの首」がベストセラーとなり、国際小説ブームの火付け役となった。この成果から84年には、TV情報番組「地球発22時」のキャスターに起用される。98年参議院東京選挙区から立候補して当選。日本最初の環境政党を作ろうと全国の組織化に奔走。環境問題や農林・水産業の復権に取り組む。アムネスティ・インターナショナル日本支部設立に携わる。07年から3年間、同志社大学院・総合政策科学研究科で講師を勤め、環境社会学を講義。現在は日本ペンクラブ理事、環境委員を務める。著書に『ごみを喰う男』、『暴風地帯』、同志社大大学院講義録『簡素なる国』ほか多数。現在朗読劇『線量計が鳴る』を全国で公演中。

**保育室あります（3才以上小学校低学年）**  
**ご希望の方は事前に連絡下さい**



所沢まちづくりセンター中央公民館  
 （公共交通機関をご利用下さい）

#### アクセス：

西武池袋線・新宿線	所沢駅	徒歩約15分
西武池袋線	西所沢駅	徒歩約15分
西武新宿線	航空公園駅	徒歩約15分